

2011年度第1四半期説明会



2011年7月29日

2011年度第1四半期決算概要(実績・見通し)



ポイント (対2010年度1Q 実績) 増収減益

(+ / ▲ は利益に対する影響を示す, 億円)

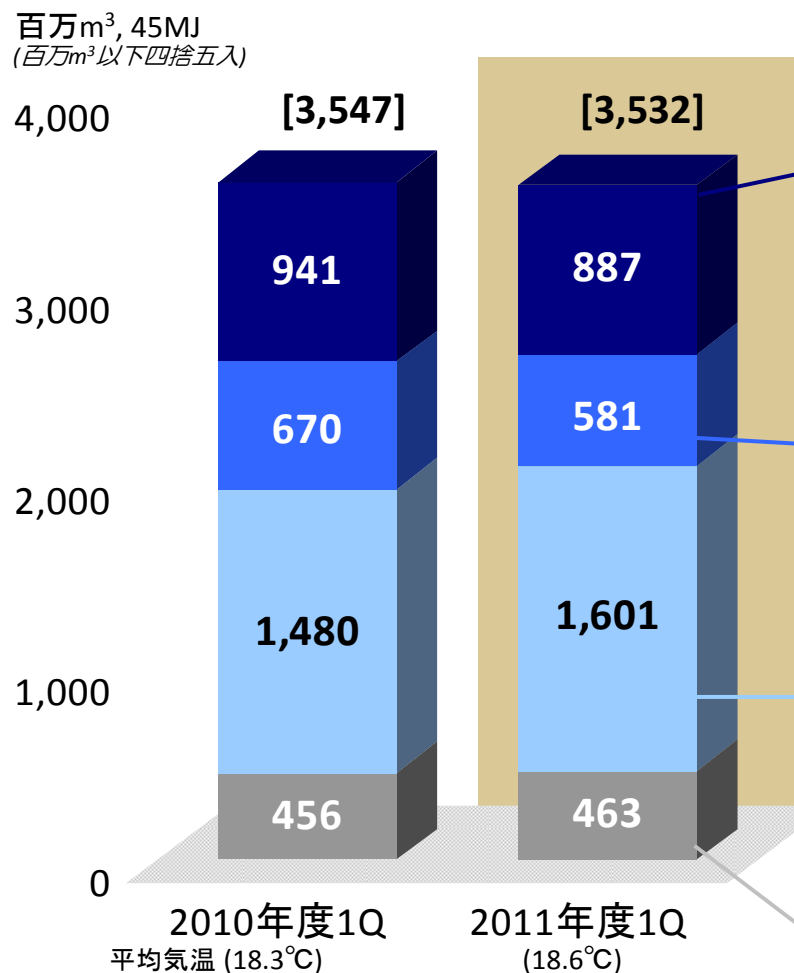
- 売上高 : + 都市ガス売上増 (+57; 原料価格上昇による単価増 個別 +104)
- : + 扇島パワー2号機稼働 (2010.7月~) に伴う電力売上増 (+74)
- 営業利益 : - 都市ガス原料費増 (▲215)
- : - 年金数理差異償却増による諸給与の増加 (個別 ▲55)
- 経常利益 : + 金利スワップ差損益 (+15)
- : - 持分法利益の減少 (▲5)、為替差損益 (▲2)

(単位: 億円)

	2011年度第1四半期	2010年度第1四半期	増減	%
ガス販売量 (百万m ³ , 45MJ)	3,532	3,547	▲15	▲0.4
売上高	3,767	3,664	103	+2.8
営業費用	3,601	3,248	353	+10.9
営業利益	166	415	▲249	▲60.0
経常利益	163	414	▲251	▲60.5
当期純利益	89	252	▲163	▲64.4
スライドタイムラグ(個別)	▲236	▲120	▲116	-
年金数理差異償却額(個別)	▲6	+49	▲55	-

経済フレーム	原油価格 (\$/bbl)	為替レート (¥/\$)	平均気温 (°C)
2011年度第1四半期	114.96	81.71	18.6
2010年度第1四半期	81.30	92.01	18.3

2010年度1Q → 2011年度1Q



▲15百万m³ (▲0.4%)の減少
 [うち大口需要 + 87百万m³ (+4.9%)の増加]
 [うち気温影響 ▲39百万m³ (▲1.1%)の減少]

■ **家庭用** ▲54百万m³ (▲5.8%)

- ・ 前年度の春先低気温影響剥落 ▲37百万m³
- ・ お客さま件数の増 +7百万m³
- ・ 日数影響 +1百万m³
- ・ その他 (標準化後 1件当り使用量減▲2.6%(個別)) ▲25百万m³

■ **業務用** ▲89百万m³ (▲13.3%)

- ・ 気温影響 0百万m³
- ・ お客さま件数の増 +7百万m³
- ・ 日数影響 0百万m³
- ・ その他 (震災・省エネによる稼働減等) ▲96百万m³

■ **工業用** +121百万m³ (+8.2%)

- ・ 一般工業用: +2百万m³
自家発電設備の稼働増等
- ・ 発電専用: +119百万m³
扇島パワー2号機稼働 (2010.7月～)
震災影響による稼働増等

■ **卸** +7百万m³ (+1.5%)

- ・ 一般卸需要増(うち気温▲2) +12百万m³
- ・ 大口卸需要減 ▲5百万m³

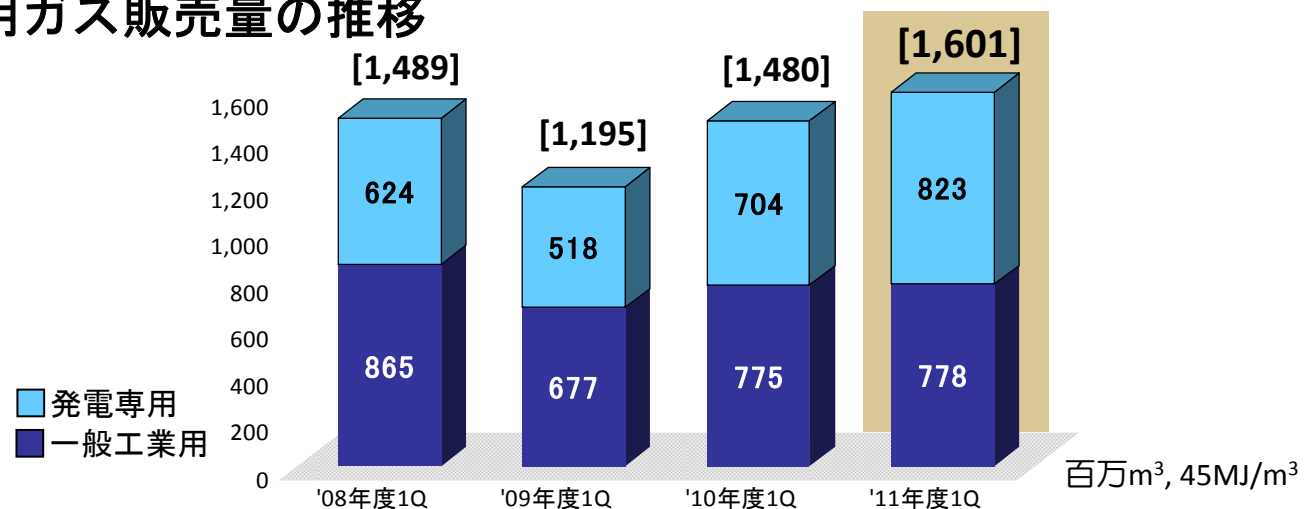
お客さま件数		(単位:万件)
2011年度1Q末	2010年度1Q末	増減
1,075.7	1,065.1	+10.6

用途別ガス販売量

■家庭用・業務用・工業用・卸

用途	具体的内容
家庭用	<p>【新設件数】前年度をやや下回る水準（集合住宅を中心に回復遅れ） （個別：'10 1Q実績 35千件 ⇒ '11 1Q実績 30千件（対前年▲15.6%））</p> <p>【標準化後1件当りガス販売量】節電に伴う省エネ傾向等により減少 （個別：103.9m³/年⇒101.2m³/年（▲2.6%））</p> <p>【電化件数】既築脱落件数 約6割減（38百件⇒15百件）</p> <p>【エネファーム】926台落成（目標進捗18.5%）成約件数は4,352台</p>
業務用	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィス、官公庁、商業施設、学校等の省エネによる稼働減 ・ 観光需要減・自粛ムードに伴う旅館・ホテル等の稼働減
工業用	<p>【一般工業用】震災後の自家発電設備の稼働増</p> <p>【発電専用】扇島パワー2号機の寄与、震災影響による稼働増</p>
卸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 供給先事業者数増（26社⇒27社）の寄与

■工業用ガス販売量の推移



ポイント

- 1 その他エネルギー：扇島パワー2号機稼働にともなう「電力」売上増（+74）
スライド影響による「エネルギーサービス」営業利益減（▲7）
- 2 不動産：東京ガス向け賃料改定に伴う売上減（▲10）
- 3 その他：エンジニアリング・ホテル等営業利益減ほか（▲15）

(単位:億円)

	売上高			営業損益				
	2011年度1Q		2010年度1Q	2011年度1Q			2010年度1Q	
	実績	対前期比	%	実績	実績	対前期比	%	実績
都市ガス	2,874	57	2.0	2,817	249	▲205	▲45.2	454
器具及びガス工事	338	▲2	▲0.5	340	0	▲5	▲93.5	5
その他エネルギー	577	88	18.0	489	1	▲6	▲84.3	7
（電力）	201	74	57.2	127	0	1	-	▲1
不動産	72	▲10	▲11.1	82	13	▲8	▲39.2	21
その他	353	▲6	▲1.6	359	3	▲15	▲79.1	18
消去又は全社	▲448	▲25	-	▲423	▲101	▲9	-	▲92
連結	3,767	103	2.8	3,664	166	▲249	▲60.0	415

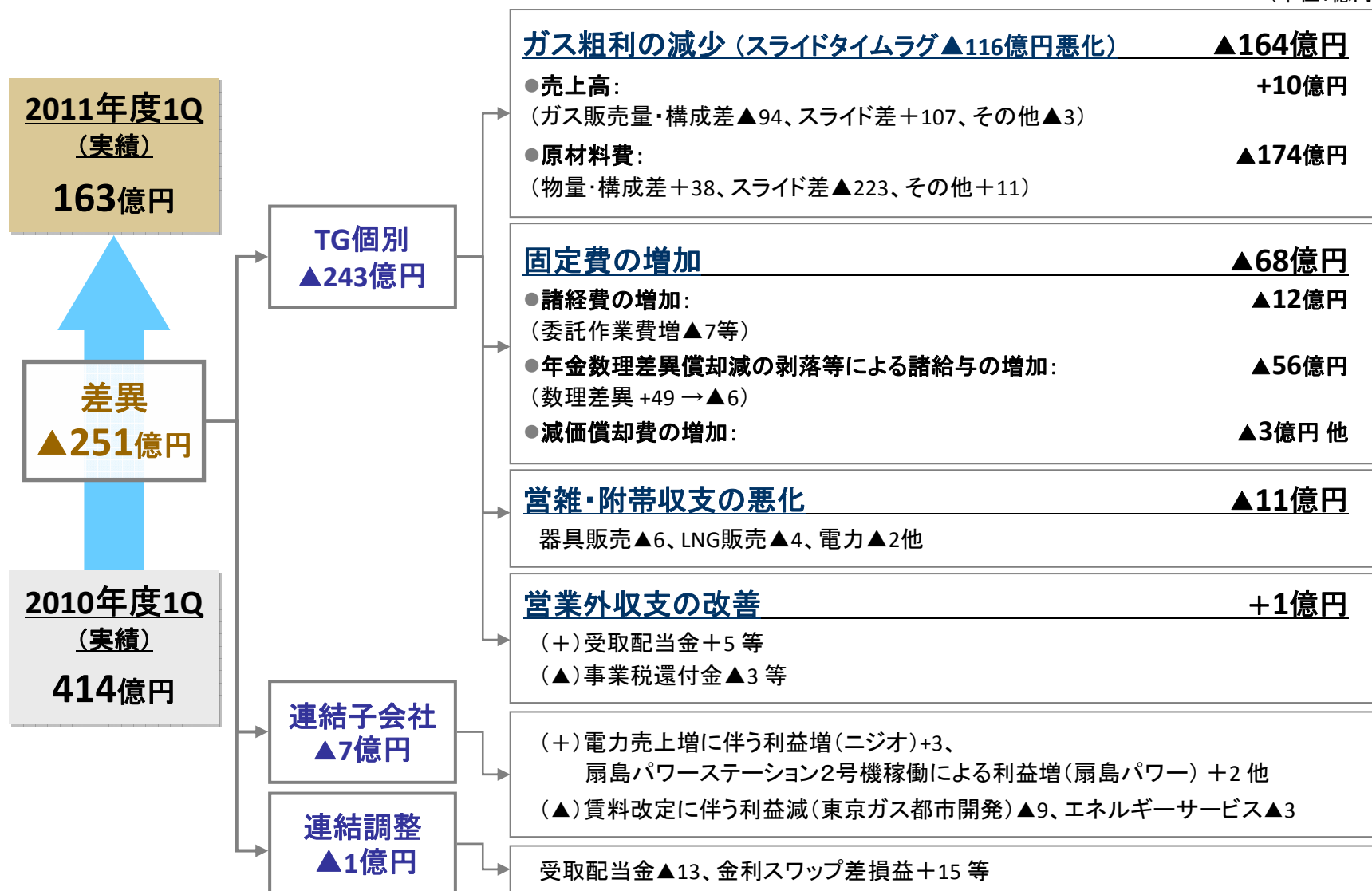
・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。

注記: ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」（LNG販売含む）、「電力」、「LPG」、「産業ガス等」を含みます。

・ 「その他」には、「建設」、「情報処理サービス」、「船舶」、「クレジット・リース」等を含みます。

2011年度1Q 経常利益分析 <対2010年度1Q実績>

(単位: 億円)



※符号は利益の貢献に対して表示

上期見通しのポイント 減収減益修正

(+ / ▲は利益への影響を示す, 単位: 億円)

売上高 : - 販売量構成差による都市ガス売上高減 (▲46)

営業利益 : - 予算執行前倒し等に伴う諸経費増 (個別 ▲72)

経常利益 : + 海外子会社の為替差益など営業外収支の改善 (+20)

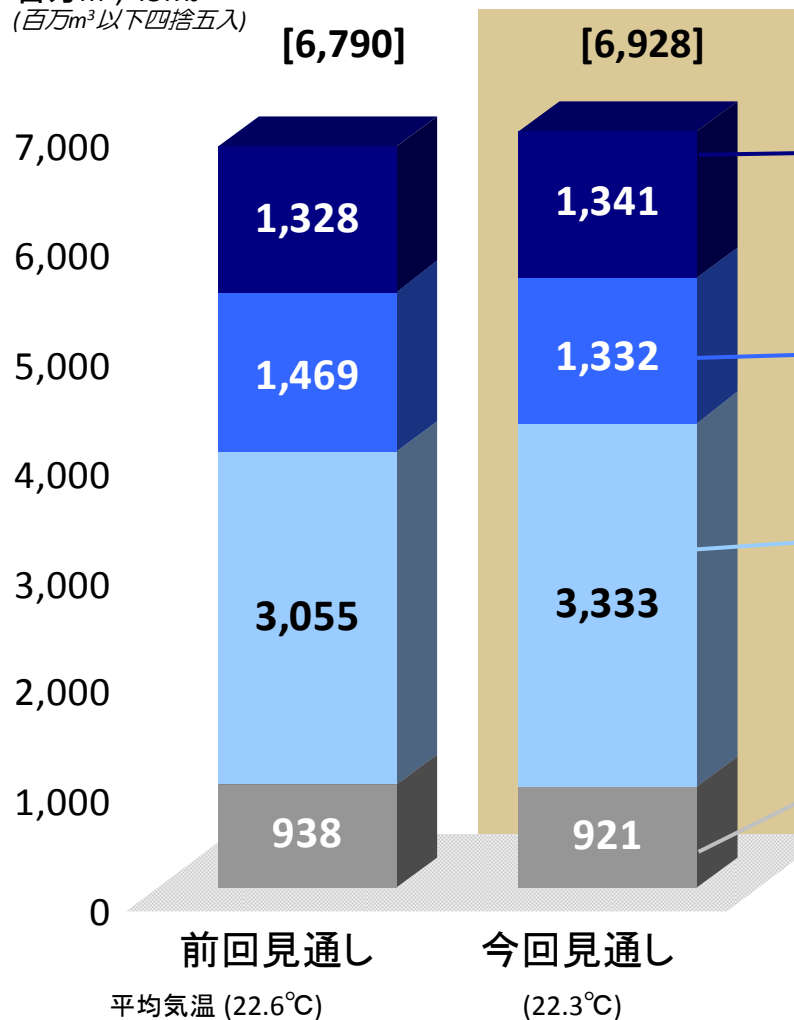
(単位: 億円)

	今回発表	当初計画(4.28)	増減	%
ガス販売量 (百万m ³ , 45MJ)	6,928	6,790	+138	+2.0
売上高	7,500	7,530	▲30	▲0.4
営業費用	7,480	7,440	+40	+0.5
営業利益	20	90	▲70	▲77.8
経常利益	10	60	▲50	▲88.3
当期純利益	▲20	20	▲40	▲200.0
スライドタイムラグ(個別)	▲420	▲406	▲14	-
年金数理差異償却額(個別)	▲13	▲13	0	-

経済 フレーム (上半期)	原油価格(\$/bbl)			為替レート(¥/\$)			平均 気温 (°C)
	1Q	2Q	平均	1Q	2Q	平均	
今回見通し	114.96	110	112.48	81.71	80	80.86	22.3
4.28発表	110	115	112.50	85	85	85	22.6

前回見通し → 今回見通し

百万m³, 45MJ
(百万m³以下四捨五入)



+138百万m³ (+2.0%)の増加

■ **家庭用** +13 百万m³ (+0.9%)

- ・ 第1 四半期の増分を織り込み
- ・ 第2 四半期は計画通り

■ **業務用** ▲137 百万m³ (▲9.3%)

- ・ 夏場の空調節電を織り込み

■ **工業用** +278 百万m³ (+9.1%)

- ・ 発電専用および自家発電設備を保有するお客さまにおける稼働増を織り込み
- ・ 上記を除く一般工業用はほぼ計画通り

■ **卸** ▲17 百万m³ (▲1.8%)

- ・ お客さま設備の被災影響等を織り込み

通期見通しのポイント 減収増益修正

(+ / ▲は利益への影響を示す, 単位: 億円)

売上高 : - 販売量構成差・フレーム変更に伴う販売単価減による都市ガス売上高減 (▲455)

営業利益 : + 経済フレーム変更に伴う都市ガス原材料費減 (個別 ▲515)

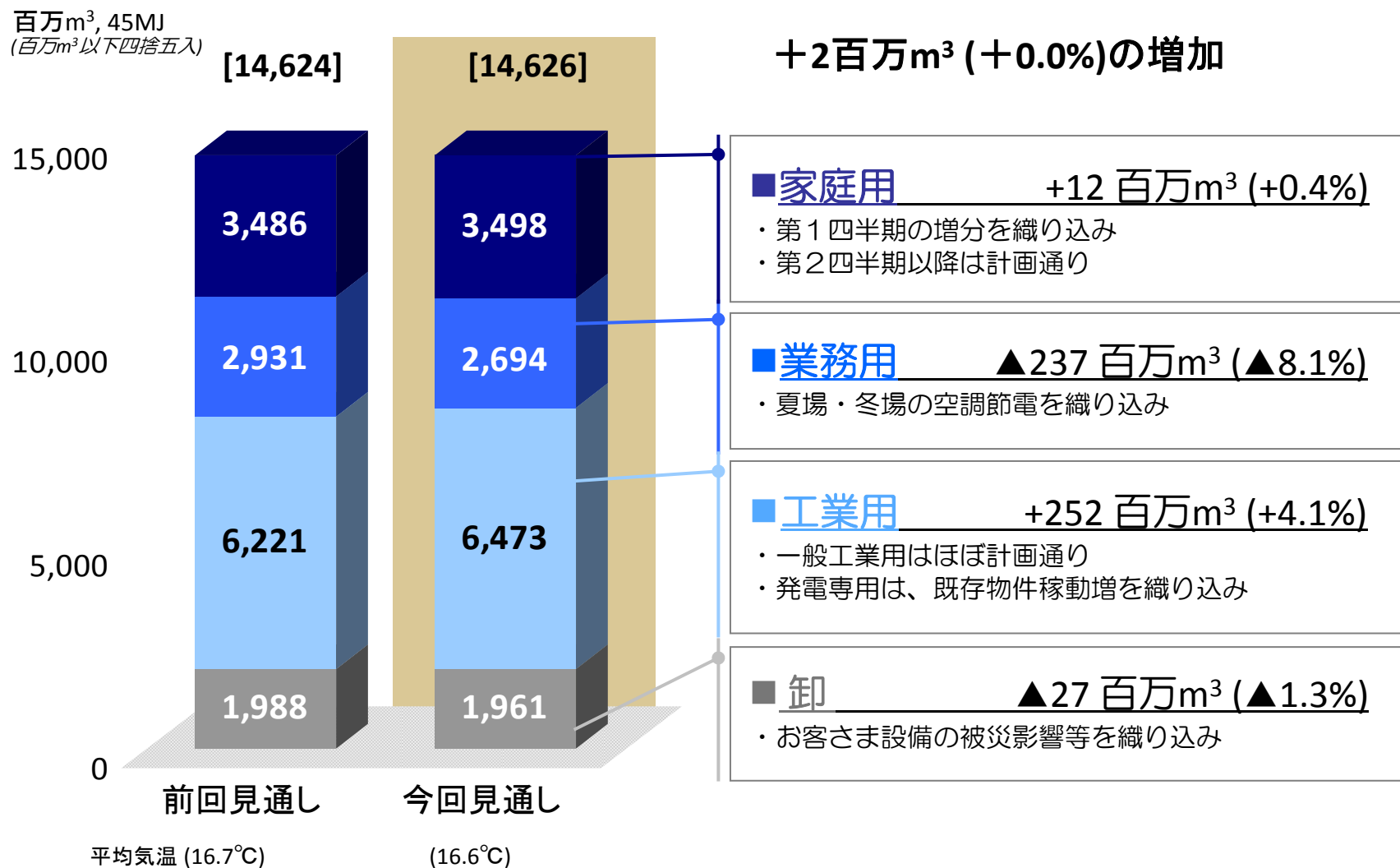
経常利益 : + 海外子会社の為替差益など営業外収支の改善 (+20)

(単位: 億円)

	今回発表	当初計画(4.28)	増減	%
ガス販売量 (百万m ³ , 45MJ)	14,626	14,624	+2	+0.0
売上高	17,050	17,520	▲470	▲2.7
営業費用	16,440	16,950	▲510	▲3.0
営業利益	610	570	+40	+7.0
経常利益	580	520	+60	+11.5
当期純利益	370	330	+40	+12.1
スライドタイムラグ(個別)	▲473	▲559	+86	-
年金数理差異償却額(個別)	▲27	▲27	0	-

経済 フレーム (通年)	原油価格(\$/bbl)					為替レート(¥/\$)			平均 気温 (°C)
	1Q	2Q	3Q	4Q	平均	1Q	2~4Q	平均	
今回見通し	114.96	110	110	110	111.24	81.71	80	80.43	16.6
4.28発表	110	115	120	120	116.25	85	85	85	16.7

前回見通し → 今回見通し



■天然ガス火力発電の焚き増し・コージェネレーション稼働増

(+) 工業用ガス販売量の増加

発電用需要の増加 (1Q実績: 704百万m³ → 823百万m³ +16.9%増)

(+) 附帯事業 (LNG販売・電力販売)

春先の電力不足対応に伴う発電焚き増し

■物流サプライチェーンの回復遅れ

(+ / ▲) 部品メーカーの製造ライン復旧

ガス機器主要部品メーカーの製造ライン復旧に伴い、生産回復

■電力需給逼迫・節電影響

(▲) 空調用ガス販売量

空調用契約 ガス販売量 (※) 対前年ガス販売量 約3割減

■オール電化攻勢の後退

(+) 既築住宅のオール電化件数の減少

前年比 約1 / 3のペース (1Q実績 約1,500件)

■住宅資材不足・仮設住宅建設による首都圏新築住宅件数の減少

(▲) 新設件数の減少

建設資機材の供給遅れにより集合物件の減少が大きく対前年5千件減 (35千件 → 30千件)

※選択約款 (空調夏期、空調用A・B、小型空調契約) 対象のガス販売量

原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

	第2四半期 への収支影響	第3四半期 への収支影響	第4四半期 への収支影響	年度計
第2四半期に変動	▲3	▲5	+7	▲1
第3四半期に変動		▲3	▲7	▲10
第4四半期に変動			▲2	▲2
通 期	▲3	▲8	▲2	▲13

円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

	第2四半期 への収支影響	第3四半期 への収支影響	第4四半期 への収支影響	年度計
第2四半期に変動	▲10	+7	+4	+1
第3四半期に変動		▲12	+10	▲2
第4四半期に変動			▲15	▲15
通 期	▲10	▲5	▲1	▲16



＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

TSE:9531